

平成 22 年 4 月 1 日から平成 27 年 7 月 31 日に熱傷を受傷し当院へ救急搬送後、リハビリテーションを受けられた患者さんへ。

課題名：熱傷部位の違いが日常生活動作能力に与える影響について

○研究の背景・目的

「やけど」として知られている熱傷は、重度になると皮膚だけでなく皮膚の下にある脂肪などの損傷を引き起こします。そして、その治療には長時間要することも少なくありません。そのため、治療中に合併症として関節が固まり動かなくなってしまうことや筋肉の力が落ちてしまうことがあり、日常生活への復帰を遅らせる原因となります。熱傷診療においてリハビリテーションを行うことは重要であり、合併症を予防し、早く日常生活へと復帰できるよう、当院では早期よりリハビリテーション介入を実施していますが、受傷部位の違いが日常生活に与える影響は不明です。この研究では、熱傷部位の違いが日常生活動作能力に与える影響を明らかにします。

○対象となる患者さん

平成 22 年 4 月 1 日から平成 27 年 7 月 31 日に熱傷を受傷し当院へ救急搬送後、リハビリテーションを受けられた患者

対象にならない患者さん

リハビリを積極的に実施することが難しかった方

○実施場所

川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター

○研究期間

倫理委員会承認日から平成 28 年 12 月 31 日。

○個人情報の保護・利益相反について

データは本研究以外の目的で使用することはありません。学会発表などで公開する際には、個人が特定されることはありません。使用したデータは鍵付き保管庫やパスワードが必要なパソコンで保管します。また、利益相反とは、研究に必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断に影響しかねないことをいいます。本研究は費用を要しない研究であり、深刻な利益相反の状態にはなっていません。

また、データ取り扱いに対する拒否は可能です。対象となる患者さんで、データ使用を拒否される方は、お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

本研究では、研究に参加した対象者または参加しなかった対象者ともに利益・不利益を受けることはありません。

○お問い合わせ先

メールアドレス morison@med.kawasaki-m.ac.jp

主任研究者 リハビリテーションセンター 作業療法部門 作業療法士 守山 峻

Tel. 086-462-1111(内線 22841)